



長崎外国語大学・短期大学

チャペル通信

編集・発行
学校法人長崎学院
宗 教 部

〒851-2196
長崎市横尾3-15-1
TEL 095(840)2000
FAX 095(840)2001

VIA VERITS VITA

「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネによる福音書14章6節)

チャペルアワー奨励から

神様の御手の中に ある私たち

日本基督教団 長崎平和記念教会牧師 森 島 豊

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

フィリピの信徒への手紙 三章十二―十四節

聖書の中に「目標を目指してひたすら走る」という言葉があります。私には、「目標」という言葉を聞くといつても思い出す友人がいます。牧師になるための神学校で学んでいた時、学生寮で生活しており、隣に親しい友人がおりました。その彼の部屋に入るといつ

も張り紙が貼ってあるので、そこにはいつも目標が書いてあった。例えば、彼は英語をマスターしたいという夢があったので、「英語一日十単語」というのがありました。面白いことに、その横に計算式が書いてありました。「一ヶ月で約三〇〇語。一年で

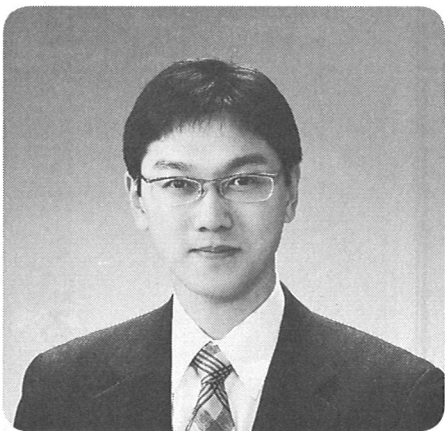
三、六五〇語。卒業時には一〇、九五〇語」。彼はそれを夢見るだけで満足していることがよくありました。

しばらくして彼の部屋に行くとその下にまた張り紙が続けて貼られてありました。「やっばり一日五単語」。また行くとさらに張っている。「はじめから無理しない。一週間で単語五つ」。「切よく一日一単語」。そして最後に「英語よりも前に、日本語をマスターしよう」。彼の部屋に行くと、一週間彼がどんなことを考えていたかよく分かり、その張り紙を見に行く楽しみがありました。

皆さんの中でも、張り紙はしなくても、同じような経験をしたことがあるかもしれせん。目標を目指して走り始める。しかし、途中で挫折しそうになる。目標は完璧なのですが、目標を目指す自分が完璧じゃない。この聖書の箇所に出てくるパウロも、自

分は完璧じゃないと言います。「私は、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません」でもパウロは心挫けないのです。諦めないのです。なぜならば「自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです」。

これは私の大好きな聖書の言葉の一つです。最近この言葉の意味を改めて味わったことがあります。教会の近くに公園がある。そこで親子が自転車に乗る練習をしていた。小さな子どもが必死な顔でお父さんに確認している。「お父さん、離しちゃ駄目だよ」。



絶対離しちや駄目だよ」。

お父さんが走りながらそれに答える。「大丈夫。ちゃんと持っているよ。前向いて」。そこでもしお父さんがちゃんと持っていないから「あああ、ガシャーン」となるでしょう。そんなことになったら、後ろが気になって、もう前など向けなくなってしまうです。けれどもパウロは言うのです。「自分はキリストに捕らえられている。自分は完全じゃないけど、キリストが自分を完全に捕らえている。だからなすべきことはただ一つ。後ろの者を忘れ、前のものに全身を向けつつ、目標を目指してひたすら走ることです」。

神様は絶対に手を離されません。キリストの愛はすべての人を完全に捕らえておられるのです。どんなに神様に背いていても、その意味で不完全な人間であっても、神様の愛はすべての人を完全に捉えておられるのです。その神の御手の確かさの中で生きる時、私どもははじめて前に向かって動き出すことができるので

す。心挫けても、また立ち直ることができるのです。神様の手の中で倒れるからです。神様が起こしてくださるのです。

皆さんの中に、なかなか前向きになれない方もおられるではありません。不安に襲われたり、周りのことが気になったり、人の顔色ばかり気にして、なかなか前に進めないこともあるかもしれません。私にもそういう経験があります。なぜでしょうか。よくよく考えると、本当に安心できる信頼関係に生きていないからかもしれません。本当に信頼できる人を知らない。本当の自分の姿を見せても、失望せずに、自分を愛し、受け止めてくれる人がいないからかもしれません。だから、いつも不安で、怯えていて、後ろばかり気にしてしまうのかもしれない。でもパウロは、もうそのような自分ではなく、たと言ったのです。キリストの愛に捕らえられている。だからなすべきことはただ一つ。後ろの者に向かって、前の者に全身を向けつつ、

神様がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

「神の見えざる手」という言葉があります。神の手は見えないのです。でも聞こえるのです。ちょうど自転車に乗る子どもが、親の手は見えないけれども、親の「大丈夫だよ。一緒にいるよ」と語りかける声を聞くように、私どもには聖書を通して語りかける神の言葉を聴くことができるのです。私どもは、語りかけられることで、安心して前に向かって動き出せるのです。大事なことは、その言葉を聞くということです。その言葉がいつでも響いている場所があります。それは教会です。あなたが神を見失っているのは、教会を見失っているからです。教会には是非来てください。そこで私どもを捕らえておられる神の愛の言葉が皆さんの心を確かに捕らえてくださいます。あなたが教会に來られることを待っています。

受講生の声

大野先生の 旧約聖書講座



大野 恵正 客員教授

「旧約聖書は現代に何を語るか」

中村 歩美

私がこの「旧約聖書は現代に何を語るか」の講義を受けようと思った理由は、大学に入り始めてキリスト教について学び、今まで、触れる機会がなかった私は、実際に触れてみて興味が出てきました。そして、夏にこの講義があることを知り、大学内のキリスト教の講義では、学ばない旧約聖書についてだったので、私は、とてもいい機会に出逢ったと思います。受講することになりました。

まず、最初の講義で、「ペレール驚きに満ちている」という言葉を知りました。そして、二〇〇〇年までで、

六億三、三〇〇万冊も聖書が配布販売されている事に早くも私は、ペレーを感じました。私は、この講義を通し、二つ印象に残りました。一つ目は、創世記の最初の部分です。六日間の秩序ある神の天地の創造。そして、七日目で世界の完成と祝福をする休息日で、これが現代の一週間の出来方であることに感動を覚えしました。二つ目は、出エジプト記で、モーセが神と出逢う時、神の姿は見えないが、神は言葉だけで、モーセと話す場面で、大野先生が、「目に見えるものは信じるな、目に見えないものこそが大切だ。」という言葉を

聞き、感銘を受けました。

この「旧約聖書は現代に何を語るか」の講義は、初心者には難しい部分もありました。しかし、旧約聖書の深奥さ、旧約聖書と新約聖書のつながり、すべてがわかったわけではありませんが、私は世界でもっとも愛されている聖書の要因に触れることが出来たと思います。また、大野先生のお話は、私の心に響く言葉が多くあり、感激するお話がたくさんありました。

(国際コミュニケーション学科一年)

井上 基子

朝起きると「ペレー」と挨拶を交わすユダヤ人も、火曜日の夕方「ペレー」という挨拶によって旧約聖書の学びを始める私達も皆、神様の祝福のネットワークに招かれた親族なのである。これが私にとって一番の『ペレー(驚くべきこと)』であった。

信仰告白から二十年以上

経つが聖書の世界との距離が縮まらないと感じていた時、この講座を受講する機会を与えられた。大野先生を通して示される旧約聖書の世界には、現代にまで向けられた神様の許しと祝福のまなざしがある。旧約の時代から三千年以上経った今を生きる自分とアブラハムの間に神様の変わらぬまなざしが貫かれていることに深い感動と感謝を覚える。

私は今公務員として働いている。十四年間迷うこと

少なく、前向きに仕事に取り組んできたと思う。一方でキリスト者としては神様の方を向いて歩いているのか迷いを感じ始めていた。「仕事は忙しいけれど幸せを感じながら働いていること」に満足している自分の生き方は神様の御心に叶っているのか不安でもあった。創世記を学ぶ中で、アブラハムが祝福のネットワーク形成のために旅立ったことを知る。その旅は現代にまで続いており、キリスト者はこのネットワークを広げるために生かされていると学

んだ。神様の壮大なネット

ワークの中に捉えられていることは何よりの安心である。『もてなし』と『とりなし』を続けたアブラハムのように、自分に与えられているものを人のために役立て、祈り続ける人生を送りたいという思いを強くした。

ネットワーク形成に繋がるこの講座を受講できたことに心から感謝している。聖書が語りかけるものを今後も学び続けていきたい。

(長崎古町教会員)

古賀 貞夫

旧約聖書を読む時は、救い主イエス・キリストの光をあてて読むようにと、三十代の頃、東道男牧師から教えられました。今

回、「ナイスキャンパス長崎」で久しぶりに旧約聖書を学ぶ機会が与えられ、妻と共に出席し、毎週一回、十五回の講義を皆勤しました。お互いの趣味の違いから、夫婦で行動することが少ない私たちですが、今回は、仲良く席を並べて講義を受けました。

講師の大野 恵正先生が、

旧約聖書の第一人者あり、

新共同訳聖書の、旧約部門の翻訳者でもあられることは存じていましたが、直接に魅力ある講義を受けて、旧約聖書の理解を深めることが出来ました。創世記のアブラハム物語を通して、古代のパレスチナ地方のことを知り、出エジプト記のモーセ物語りでは、三十代に見た映画、「十戒」を思い出しながら学びました。最後の箴言は、初めて学びましたが、二千年も三千年も前の人生観察の格言が、現代の私たちの営みにそのまま当てはまることに驚き、旧約聖書が現代に何を語っているかと、しっかりと受け止めました。

今回の講座は、毎回五十名余の出席でしたが、長崎外語大の韓国の留学生をはじめ、学生から八十代の方々まで、幅広い年令の参加でした。その中でも、十組あまりの夫婦での出席があり、その殆どが皆勤・精勤でした。私たちと同様に、旧約聖書の勉強の機会を待ち望んでいたのだらうと思います。旧約聖書を学ぶ

オリジナル商品 長崎版 一筆箋

長崎の観光の思い出を伝えるおみやげとして、又、贈物に添えるメッセージカードとしてご利用下さい。

 教会編 各6種類 定価 350円(税込)	 観光地編 各5種類 定価 300円(税込)	 坂本龍馬編 定価 300円(税込)
問い合わせ先 九州印刷株式会社 〒862-8103 長崎市緑町4番5号 TEL 095-846-6844 FAX 095-846-6845 E-mail kyushu.p@ymt.bbq.jp		

キリスト教書店ハレルヤ

〒862-0971 熊本市大江4-20-23

TEL 096-372-3503 (FAX共用)

E-mail:k-haleruya@earth.ocn.ne.jp

事によって、新約聖書の理解がなお深まったことを感じました。

このような好評な講座を、ナイスキャンパス長崎で、長崎外国語大学が提供して下さり、小西宗教主任をはじめ、職員の方々がお世話下さったことに感謝申し上げます。

(長崎銀座町教会員)

中尾 志津子

NICEキャンパス長崎のこの講座を、是非受講したいと願ひさつそく長崎外国語大学へ申し込みました。時間帯、場所も、おまけに参加費に関しても参加しやすく考慮していただいたことに感謝いたします。

受付で次回の分のテキストも配られたことは非常に有難いことでした。それにより、受講に先立って予習することができました。最初から分厚い本を渡されるのと違い、少量ずつであったが故に読み進めていくことが容易にできたと思います。

さて、期待いっぱい出席した第一回、「ペレー」という言葉を教えられました。

その意味するように出席者の顔ぶれを見て驚きました。学生さんよりはむしろ一般の方が多かったと思われました。市内のあちこちの教会からご夫婦やご家庭での参加が目につきました。

講座名が示すように「現代社会に何を語るか」については、自分の狭い生活範囲を超えて現代の政治・国家・地域・国際社会におけるあらゆる問題に目を向けて話され、それぞれの背景も学ぶ事ができました。

私の属する教会では旧約聖書が説教にとりあげられることはあまりありませんでしたから諸書に至っては知る機会とは与えられなかつたような気がします。ですから、雅歌についての解説は有難く嬉しいものでした。「男女の恋に始まり：婚礼と性的同一に至る。：人間の営みを極めて大事なものと位置づけている。」創世記で神が人間を創造し、祝福してくださったことの展開なのかしらと、旧約聖書をもう一度読み直す気になりました。

(長崎古町教会員)

春海 賢一

NICEキャンパス長崎のはたらきとして、聖書の立場から旧約聖書を学べることに、さらに開催場所が大学の外に出た「出島交流会館」と知り、一層関心を持ち、早々と申し込みました。大学も思いきった事をするものだと感じたのです。

大野先生と受講生の、ペレー(Wonderful・驚きに出会う)という挨拶が始まる、十五回にわたる旧約聖書の解き明かしは、実に新鮮で素直に学びを受け止める事ができました。

私自身、旧約聖書を偉大な書と知りつつも、また、通読を通して、新約聖書の土台となっている事を理解しつつも、糧とした内なる書は、キリストの十字架の愛と復活の命の恵が記された新約聖書でありました。

今回の学びで、特に心に留めた事は、未完の書としての旧約聖書全体が、キリストの十字架の御救いの愛に繋がっているという、これまで以上の広さで捉える新たな発見でした。

数千年の歳月を経た今日

においても変わる事のない、醜い人間の姿や際限ない戦争、そして自然破壊など。人間の成長とは何なのかと、ふと天空を見上げる事は多いのですが、それでも神は、今回学んだアブラハムやモーセなどへの語りかけを通して、命とは・希望とは・生きるとはそして、祝福とは何かを改めてなげかけてくれました。

今回の学びは、私だけでなく多くの出席者の方々に「ペレー」の思いを下さったと思います。さらに、大学と社会の繋がりが重視される中、心の孤立化が進む社会の只中に飛び込んだキャンパス長崎の意義は、実に大きく貴重であったと思います。十五回(八十五ページの資料)に亘る講義の大野先生はじめ、大学

関係者の英断と小西先生ほかスタッフの皆さまのお働きに心から感謝を申し上げます。

なお、勝手なお願ひですが、学びと人的交流が図られ、また、地域の人材を育てて頂くためにも、是非、こうした企画を引き続きご検討下されば幸いです。

(長崎バプテスト教会員)



授業風景

映画紹介

『ダウト』

『あるカトリック学校で』

(Doubt)

ミラマックス・フィルム、スコット・ルーディン制作
ジョン・パトリック・シャンリー監督、二〇〇八年米

山川 欣也

一九六四年のニューヨーク市、ブロンクス区にはセント・ニコラス・スクールという名のカトリック教区学校があった。厳格で確信的な学校長シスター・アロイス（M・ストリープ）、旧来の教条主義的な体制を変えようとする司祭のフリン神父（F・S・ホフマン）、イノセントで若い新人教師シスター・ジェイムズ（A・アダムス）、そして学校で唯一の黒人生徒ドナルドの母親ミラー夫人（V・デイヴィス）、この四人（中でも最初の三人）が登場人物

の軸となる。二〇〇四年にオフ・ブロードウェイで初演された、本作の監督自身が書いた戯曲の舞台を映画化したのが本作である。因みにその舞台はブロードウェイに進出し、ピュリッツァー賞やトニー賞を獲得している。

司祭がミサの侍者でもあるドナルドを授業中に司祭館へ呼び出したことをめぐって映画は展開する。生徒の呼び出しなどは日常かもしれないが、教室に戻った生徒の息が酒臭かったとすれば、「そうですか」で

済む話ではなくなる。信仰と教育への司祭の考え方にある種の嫌悪感を覚えていた校長は、この一件で嫌悪感に加えて司祭を猜疑心で見ようになり、疑問が次の疑惑を招来していく…。これが本作に通底する大きな主題である。

物語が設定されている

一九六四年、最初の舞台が上演された二〇〇四年、そして映画化された二〇〇八年、これらの年は偶然では

なく必然的な意味を持つている。一九五四年、アメリカ連邦最高裁は公立学校における人種分離教育は違憲だとの判決を下し、かかる状況を速やかに改善するよう勧告した。翌年にはアラバマ州モンゴメリーでキング牧師を指導者に仰ぎバスボイコット運動が成功した。こうした様々な社会的変動の中で困難をとめないながらもようやく黒人の公民権法が成立したのが一九六四年であり、映画冒頭でフリン神父が説教で触れたケネディ大統領が暗殺された翌

年にあたっている。また、一九六二年から六五年にかけて、教皇ヨハネ二三世のもと「教会の現代化」をテーマに第二回ヴァチカン公会議が開催されていた最中であつた。そして、二〇〇四年は米英がイラク攻撃を開始した翌年にあたり、二〇〇八年は白人ではないアメリカ大統領が初めて誕生した年である。

司祭はミサで「疑うこと」の必要性を説く一方で、その「不寛容さや『ゴシップ』を断罪する。校長シスター・アロイスにとつて「疑うこと」はつまり、それはたとえ罪深いとしても「正しいこと」に帰結する行いである。ただ、「疑惑」の観点からだけでいえば、「疑っていること」がイコール「真実」へと直結するわけではない。決してカタルシスを得られることはない作品で、何かモヤモヤしたまま映画を見終えることになるのだが、それはそこに私たちの

社会が抱えている問題と重なり合う不確実性、ぼんやりとした不安定さみたいなものを感じているからなのだと考えられる。例えば、イラクが保有するとされた大量破壊兵器への「疑念」は解明されることなく「正義」は遂行され、私たちの多くは、「疑い」を「真実」であるかのごとく、これを傍観していた。アメリカ社会における異人種もまたその対象であつたし、おそらく今も少なからずそうなのだろう。

ラストでシスターが「have doubt」と繰り返し泣き崩れる姿は強烈である。

（教授・アメリカ研究）



2009年度 チャペルアワー等の記録

チャペルアワーは毎週水曜日午後12:40～1:00

(春学期)

回	月 日	奨 励 題	聖 書	奨 励 者
歳次リテ	4月10日	求 め な さ い	マタイ7.7,8	小西 哲郎宗教主任 (長崎学院)
1	4月15日	保護主義に陥らないで	一コリント12.22-7	福井 博文牧師 (長崎古町教会)
2	4月22日	友 よ	マルコ2.1-12	原 和人牧師 (長崎銀屋町教会)
3	4月29日	聞く耳のある者は聞きなさい	ローマ10.17	吉川 八郎牧師 (長崎教会)
4	5月13日	わたしのアイドル	出エジプト20.4-6	星野 江理香牧師 (長崎滑石教会)
5	5月20日	神の言葉と知った時	ルカ5.1-11	三浦 功牧師 (ナザレン 長崎教会)
6	5月27日	愛されている自己発見	イザヤ43.1-5a	森島 豊牧師 (長崎平和記念教会)
7	6月3日	栄光病院に学ぶ	マタイ1.23	栗屋 曠理事長 (長崎学院)
8	6月10日	赦すということ	ルカ11.1-4	大薮 朝祥牧師 (長崎飽之浦教会)
9	6月17日	ベ ト ロ の 失 敗	ルカ22.54-62	三浦 功牧師 (ナザレン 長崎教会)
10	6月24日	信じる者になりなさい	ヨハネ20.24-9	星野 江理香牧師 (長崎滑石教会)
11	7月1日	法隆寺を支えた木	一コリント12.20-2	高橋 勇造理事 (長崎学院)
12	7月8日	自分の可能性を求めて	ルカ5.1-11	チェ ピョンイル牧師 (日本基督 長崎伝道所)
13	7月15日	夜明けの呼び声	ヨハネ21.1-7	三浦 功牧師 (ナザレン 長崎教会)
14	7月22日	彫刻家 平櫛田中の生き方	二コリント4.16-8	小西 哲郎宗教主任 (長崎学院)

(秋学期)

回	月 日	奨 励 題	聖 書	奨 励 者
1	10月7日	神にかたどって造られた者	創世記1.27	福井 博文牧師 (長崎古町教会)
2	10月14日	振り返れば奴がいた	マタイ5.38-48	原 和人牧師 (長崎銀屋町教会)
3	10月21日	私 たち は 神 の 宝	申命記7.6-8	森島 豊牧師 (長崎平和記念教会)
4	10月28日	人生の道標 (みちしるべ)	ヨハネ14.6	高橋 勇造理事 (長崎学院)
5	11月4日	自分を見つめるゆとり	ヨハネ8.1-11	吉川 八郎牧師 (長崎教会)
6	11月11日	それは等価交換の原則から外れている	ヨハネ6.1-15	大薮 朝祥牧師 (長崎飽之浦教会)
7	11月18日	招 か れ る 人 たち	マタイ9.9-13	星野 江理香牧師 (長崎滑石教会)
8	11月25日	走 る 人 の 喜 び	フィリピ3.12-4	チェ ピョンイル牧師 (日本基督 長崎伝道所)
9	12月2日	理 想 を 掲 げ 続 ける	申命記5.16-21	堀尾 憲孝司祭 (聖公会 長崎聖三一教会)
10	12月9日	言葉が肉 (体) となった	ヨハネ1.1-14	蔦田 善毅牧師 (インマヌエル 長崎キリスト教会)
クリスマス	12月17日	わたしたちの救い主は弱いまの小さな乳飲み子	ルカ2.1-14	星野 江理香牧師 (長崎滑石教会)
11	1月13日	神が望んでおられること	一テサロニケ5.14-8	三浦 功牧師 (ナザレン 長崎教会)
12	1月20日	信 頼	マタイ8.23-6	小西 哲郎宗教主任 (長崎学院)

編集後記

『チャペル通信』第一九号をお届けします。ご寄稿いただいた皆さまに感謝申し上げます。さて本学では今年度

大野恵正先生(前活水女子大学教授、日本旧約聖書学会員)を客員教授として迎え、旧約聖書は現代に何を語るか」という講座を「NICEキャンパス長崎」(長崎県内の大学間単位互換制度)のコーディネイト科目として開講しました(九月二十九日～一月二十六日、毎週火曜日午後六時～七時三〇分、於出島交流会館)。毎回約五〇名の学生・一般受講生が熱心に学び、また良き交わりの時をもち、好評のうちに全日程を終えることができました。三・四回はその受講生の声です。大野先生ならびに受講生の皆さまに心から感謝し、ご報告にかえさせていただきます。

(小西 哲郎)